



2021年12月9日  
志賀高原ユネスコエコパーク  
みなかみユネスコエコパーク  
公益財団法人イオン環境財団

## 志賀高原 みなかみ 「ユネスコエコパークフェア」を開催

12月11日(土)・12日(日) イオンモール幕張新都心にて

公益財団法人イオン環境財団(理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役)は志賀高原ユネスコエコパーク(会長 竹節義孝 長野県下高井郡山ノ内町長)、みなかみユネスコエコパーク(会長 鬼頭春二 群馬県利根郡みなかみ町長)と12月11日(土)・12日(日)にイオンモール幕張新都心にて「ユネスコエコパークフェア」を開催します。

当財団は、2017年に日本各地のユネスコエコパークが組織する、日本ユネスコエコパークネットワーク(会長 渡部勇夫 福島県南会津郡只見町長)と、連携協定を締結しています。同協定は“生態系の保全”と“持続可能な利活用”の調和を目指し、日本のユネスコエコパークにおける保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援という3つの分野に関して連携して取り組むものです。

協定に基づく取り組みとして、今回、イオンモール幕張新都心において、パネルや映像の展示、ネイチャークラフト体験、同パークの構成市町村である長野県山ノ内町、群馬県みなかみ町の特産品の販売などを実施し、ユネスコエコパークの理念やその魅力と、同パークの豊かな自然と人々との関わりをわかりやすくお伝えします。

今後も、当財団と各地のユネスコエコパークは様々な活動に連携して取り組んでまいります。

### 【ユネスコエコパークフェア(志賀高原ユネスコエコパーク、みなかみユネスコエコパーク)】

- 日 時：12月11日(土)、12日(日)  
場 所：イオンモール幕張新都心(千葉市美浜区豊砂1-1)  
          グランドモール1階ホビーコート、ファミリーモール1階ファミリーコート  
主 催：公益財団法人イオン環境財団  
共 催：志賀高原ユネスコエコパーク協議会  
          みなかみユネスコエコパーク協議会  
内 容：パネル展示、映像放映、ネイチャークラフト体験、  
          長野県山ノ内町、群馬県みなかみ町の特産品の販売など



過去のユネスコエコパークフェアの様子。

※コロナ下での開催となる今回は、ゆるキャラ登場やステージイベントは行いません。

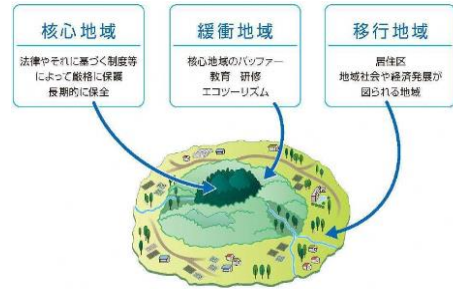
## ご参考

### 【ユネスコエコパークについて】

“生態系の保全”と”持続可能な利活用”の調和（自然と人間社会の共生）を目的として、1976年にユネスコが開始しました。生物圏保存地域（BR: Biosphere Reserves）に、より親しみをもってもらうため、国内ではBRを「ユネスコエコパーク」と呼ぶことが、2010年1月日本ユネスコ国内委員会で正式に決定されました。認定地域数は2021年9月現在、131カ国727地域で、うち国内は10地域（※）となっています。

自然と人間社会の共生を目指すユネスコエコパークには3つの機能（保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援）があります。そしてその機能を果たすために、3つの地域（核心地域、緩衝地域、移行地域）が設けられています。核心地域では厳格に自然が保護され、核心地域保護のための緩衝地域では、教育・研修・エコツーリズム等が行われています。移行地域は人が生活し自然と調和した持続可能な発展を実現する地域であり、環境を守りながら循環型で持続可能な地域づくりが行われています。

※「志賀高原」、「白山」、「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」  
「屋久島・口永良部島」、「綾」、「只見」、「南アルプス」  
「みなかみ」、「祖母・傾・大崩」、「甲武信」



### 3つの地域（ゾーニング）

出典：日本ユネスコ国内委員会

### 日本のユネスコエコパーク



資料提供：日本 MAB 計画委員会

### 【日本ユネスコエコパークネットワークについて】

日本国内におけるユネスコエコパークの地域間連携を促進し、一つの地域では対応できない課題への対応、社会への働きかけなどを行い、ユネスコエコパークの理念に基づいた人間と生物圏とのより良い関係を築いていくことを趣旨とし、ユネスコエコパーク単位が会員として組織しているものです。

### 【志賀高原ユネスコエコパークについて】

核心地域	志賀山を中心とする上信越高原国立公園の特別保護地区
緩衝地域	上信越高原国立公園の特別地域及び普通地域
移行地域	長野県山ノ内町及び高山村の核心地域 緩衝地域以外のほぼ全域
登録	1980年（昭和55年）
拡張登録	2014年（平成26年）
関係自治体	長野県：山ノ内町、高山村 群馬県：中之条町、草津町、嬭恋村

#### 【自然環境】

志賀高原は、フォッサ・マグナ上に位置し、志賀山、草津白根山など複数の火山が密集した火山帯の外壁に囲まれた大きなすり鉢状内側に位置する高原で、大小70余りもの湖沼や湿原が多数存在する複数水系の水源地帯となっています。ブナやミズナラなどの温帯の落葉広葉樹林、コメツガやシラビソなどの亜高山帯の針葉樹林が生育し、森林内には湿原が散在するなか湿地特有の植物も生育しています。また亜高山帯の針葉樹林の一部には、原生林も残されています。こうした植生は、多様な動物種の生育にも影響を与え、ニホンザルやヤマネ、オコジョなどの希少動物や、イヌワシやヒガラ、ルリビタキなどの鳥類も生息しています。

#### 【伝統的共有地と資源管理】

緩衝地域及び移行地域の山林の一部は、地元集落の伝統的な共有地であり、中世以前より資源を採り尽くさないよう共同で管理する、集落の入会（いりあい）慣行により、野草の採取や樹木の伐採など持続的に利用されています。また、河川の漁業権は地元住民による漁協共同組合にあり、雑魚川に生息するイワナ在来個体群は漁協の管理により適正な資源利用がされています。こうした地元住民団体による共同管理は、大型資本の参入や水利権の乱用を防ぎ、志賀高原ユネスコエコパークを守る役割を果たしています。



四十八池湿原と裏志賀山、および散策用の木道

## 【みなかみユネスコエコパークについて】

みなかみユネスコエコパークは、群馬県の最北端に位置するみなかみ町を中心として、隣接する新潟県の魚沼市、南魚沼市、湯沢町の一部から構成されています。総面積は91,368ha、その90%以上が森林となっており、標高約300~2,000mの間に位置しています。このエリアは、日本を代表する大河川である、流路延長322km（日本第2位）、流域面積16,840キロ㎡（日本第1位）の利根川最上流域に位置しており、日本の首都・東京を中心とした、人口・経済において世界最大規模である東京都市圏の約8割、3,000万人の生命と暮らしを支える水の最初の一滴を生み出しています。



みなかみ町全景

群馬県と新潟県の県境域は中央分水嶺となっており、山間部は太平洋側であるにもかかわらず日本海側の要素を多く含む多雪の気候で、大量の積雪の影響などにより急峻な岩壁や露岩地に加え、周氷河地形などの豪雪地特有の地形を形成しています。一方で移行地域の中心部がある平地部は積雪量が少なく、冬の日照時間も関東平野とほぼ同等の太平洋側の気候となっています。これにより、みなかみユネスコエコパークは、日本海側と太平洋側の気候条件の移行帯であることなどに起因した、特殊な地形・地質や植生により多様で希少な動植物が育まれ、独特の生態系が見られるなどの特徴を有しています。

エリア内では、国とNGO、地域の3者の協働による生物多様性の復元と持続可能な地域づくりを調査・研究する赤谷プロジェクトや、エコツーリズム推進法により計画が認定されている谷川岳エコツーリズム、木のある暮らしを提唱する木育事業や環境保全型の林業である自伐型林業などが推進されています。また、豊かな自然の恵みである温泉、山や川を活用したアウトドアスポーツが盛んに行われており、きれいな水や寒暖差の大きい気候により高品質な農作物が生産されるなど、豊かな自然が地域の暮らしや経済に深く根ざした、人と自然が共生する地域づくりを行っています。

## 【公益財団法人イオン環境財団について】

1990年「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと設立されました。時代とともに変化する環境課題に応じた事業を継続実施しており、現在は「イオンの森づくり」「助成」「環境教育」「パートナーシップ」の4事業を中心にステークホルダーの皆さまとともに環境活動に取り組んでいます。

<ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>>

### ■イオンの森づくり

国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採等で荒廃した森の再生を目的に、日本はもとよりアジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。これまでの31年間、世界11カ国で植樹を行い、イオンの累計植樹本数は1,223万本を越えました。（2021年2月末現在）

### ■助成事業 【環境活動助成】

1991年より開始された助成事業は、国内外で地域に根ざし、環境活動に積極的に取り組んでいる非営利団体を対象に、活動費の一部を支援しています。毎年、基本テーマを設定して公募を実施しており、これまでの30年間で、のべ3,153団体に総額28億7,177万円の助成を行ってまいりました。基本テーマは時代の変化に則して設定しており、本年の基本テーマは「里山 commons の再生」でした。

### ■顕彰事業 【生物多様性アワード】

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設し、隔年で顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。